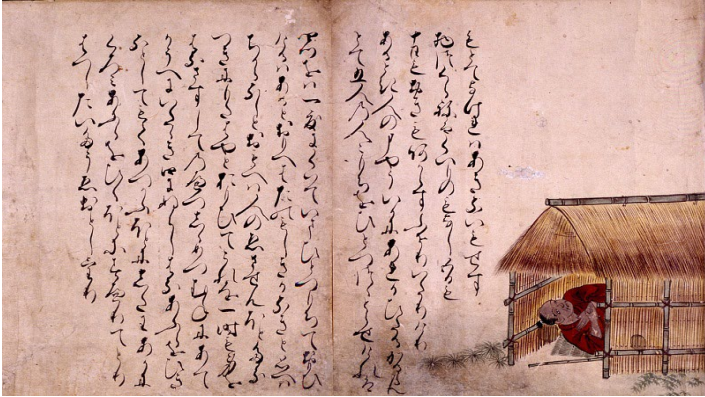


貴重図書展示「秋の名品展」

期間：2023年10月10日（火）～12月27日（水）
場所：中百舌鳥図書館1階貴重図書展示ケース

ものぐさたろうえまき
物臭太郎絵巻 写 一巻



室町時代物語。もと冊子本であったものを卷子に改装したもので、六十一紙を継いでいるが、そのときの錯簡、落丁が見られる。本巻は最も原絵巻に近いもので、かつ書写年代も原絵巻の成立時よりそれほど時間が経過していないものと考えられる。

だけ
あやね竹 刊三冊



江戸の菱川師宣に匹敵する浮世絵の先駆者である上方の浮世絵師・大森善清による、中国古典を題材にとった「絵本」。そもそも本書は現存するものが極めて少なく、それだけでも貴重であるが、大阪公立大学本は現存唯一の完本であり、大森善清の画業を知るうえでの基準作となる。

いわやのぞうし
岩屋草子 写横一冊



室町時代物語。奈良絵本。継子いじめ型の恋愛物語で、諸本に異同が多い。寛永以後には版本として何度も出版された。本書には六枚の奈良絵が収められている。

ゑぼしをり 写 二冊



舞の本、奈良絵本。判官物の義経元服より始まる物語で、謡曲「烏帽子折」との関係が深い。元和以後には版本が何度も出版された。本書には十九枚の奈良絵が収められている。

げんじものがたり
 おさな源氏物語 刊 五冊
 寛文12年(1672) 野々口立圖作・画



幼少婦女子のために『源氏物語』を要約したもの。同じ著者の『十帖源氏』をさらに簡略化している。版本の絵に色を塗った丹緑本である。

きょうげんづし
 狂言尽 刊 二冊
 寛文5年(1665)



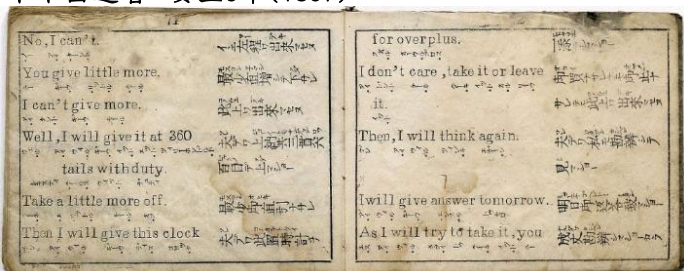
絵入狂言記の極初期のもの。「ゑぼしをり」「すはじかみ」「七きおち」等一曲を収録し、それぞれに絵を一つずつ配している。

きょうしばいばんつけ
 京芝居番附 刊 一冊



明和元年(一七六四)十一月京北側芝居上演から、寛政三年(一七九一)七月京北西側芝居上演までの、京番附五十枚。空白の多い近世中期の京歌舞伎の興行を知る新資料を多数含む。

わえいしょうこたいわしゅう
 和英商賈對話集 初編 刊 一冊
 本木昌造著 安正6年(1859)



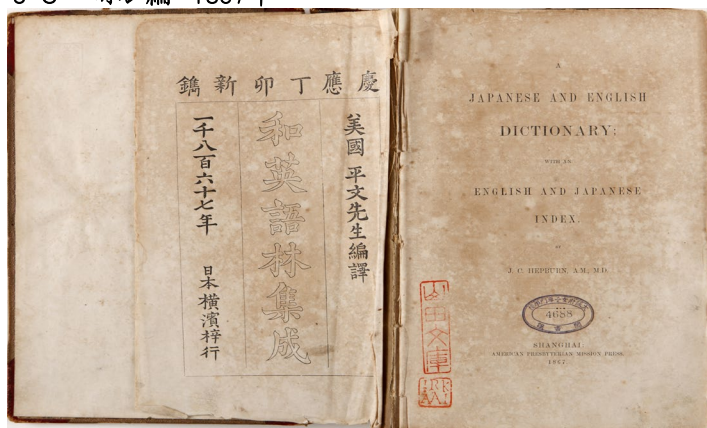
欧文、発音表示の片仮名は鉛活字、和訳文は木版で、活版と木版の二回刷り。日本人の手になる英会話所としては、最も早いもののひとつである。「和英両国ノ商賈使用ノ為ニ

少年の悲哀 国木田独歩自筆原稿 16枚



『小天地』明治三五年（一九〇二）八月号に掲載されたもの。推敲の過程で、標題が「少年の哀情」から「少年の悲哀」に変わる等、注目すべき点が多い。原稿末尾に「三十六年六月稿」とあるが、初出では「三十五年五月稿」に訂正されている。

わえいごりんしゅうせい
和英語林集成 刊一冊
J・C・ヘボン編 1867年



見返しに「慶應丁卯新鐫 美国平文先生編訳和英語林集成」とあり、日本語の題字は岸田吟香が書いたものである。別名へボン辞書とも云う。英文標題はA Japanese and English

大阪公立大学中百舌鳥図書館